

第4回 運営推進会議

2026年5月21日(木)

10:30～

デイサービス井福来

デイサービス井福来

居宅介護支援 いぶき

本会議の趣旨



利用者様(ご家族様)、市町村職員、地域住民の代表者等に対し、提供しているサービス内容等を明らかにし、地域に開かれたサービスとすることで、サービスの質の確保を図ることを目的としています。



定期的(半年に1回)に開催して、情報を共有したり、意見交換をしたりすることで、地域全体で介護サービスの質の向上を実現していく。

デイサービス井福来の現況



- ・認知症対応型通所介護(要介護認定者)
 - ・介護予防認知症対応型通所介護(要支援認定者)
- ※R6. 6. 1認可(旧ふじしろデイサービスからの移行)

1日のご利用定員 …… 12名
サービス提供時間 …… 9:15～16:30

〒411-0801 静岡県三島市谷田1601-20
TEL:055-957-1711 FAX:055-957-1713
<https://www.com-work.jp/ibuki/>

【姉妹事業所】

デイサービス若芝／デイサービス山風木
居宅介護支援事業所いぶき(ケアマネ)

関係事業所のご紹介



【関係事業所】

★居宅介護支援事業所いぶき(ケアマネージャーが常駐)

介護106名、予防及び総合事業40名を担当
ケアマネージャー4人体制で活動しています。
主任ケアマネが3名います。
ふじしろ時代とあわせて19年目の運営実績



平成24年1月1日

★デイサービス若芝(地域密着型通所介護)

→R6.2 認可更新 現在15年目に入りました
→芝本町(商店街)の一員として存在感

平成30年3月1日

★デイサービス山風木(認知症対応型通所介護)

→R6.3 認可更新 2期目(9年目)の運営に入っています
→認知症の利用者様に特化した事業所
→定員12名 ※井福来と同じ事業形態となります



デイサービス井福来の稼働状況



<ご利用実績>

ご登録人数: 36名

◆4月のご利用実績

平均稼働率=92%

※概ね定員(12名)は埋まっておりますが、お休みの関係で90%程度です

<ご利用予定(4月22日時点)>

月	火	水	木	金	土
12名	12名	12名	12名	12名	11名

事業所として目標としていること

- ⇒姉妹事業所やケアマネとの連携強化
- ⇒認知症に焦点をあてたサービス提供
- ⇒個別対応を中心としたサービス提供
- ⇒井福来らしさを特徴として発信

介護度	人数
要支援	1名
要介護1	18名
要介護2	11名
要介護3	4名
要介護4	2名
要介護5	0名



強いチームになろう！

<時代・社会の変化に負けないチーム作り>

物価高騰・中東情勢など世の中の流れに負けないチーム作り

・・・何が出来るか考える・探す・行動するが基本

行事や企画をよりよくするための工夫や検討

新しい活動を協力して作り出していく！

個々の利用者様をしっかりと追いかけていく！

■体制 30～40代の中核人材の育成強化！

	デイサービス井福来	デイサービス若芝	デイサービス山風木
相談員	専任1名、兼務者1名	専任1名、兼務者1名	専任1名、兼務者1名
介護職	専任3名、兼務者2名	専任2名、兼務者2名	専任4名、兼務者2名
看護師	1名	1名	2名
ケアマネージャー	専任4名、兼務者1名	—	—

国家資格(介護福祉士)⇒取得支援！ ※介護職の国家資格保有率90%

それぞれの生活と向き合う



<個々の環境は千差万別>

提供サービスだけで完結することなく生活の実態にもアンテナ高く！

概要

認知症で独居

衣食住の確保はもちろんのこと人権という視点もとても重要

老々介護

サポートに入るご主人(奥様)も無理ができない。ご夫婦で認知症のケースも

娘・息子が別居・遠方在住

ご子息の生活も大事にすべきです。同居や頻繁な訪問が難しい状況で利用者様の生活実態が正しくつかみ切れなかったり、困りごとの温度感がズレてしまうこともあります

キーパーソンとの関わり（遠縁だったり、キーパーソンも余裕がなかったり）

サポートの中心となる方が、曾孫さんだったり、甥っ子さんだったりする場合は生活習慣の把握や双方の心情的な隔たりなど難しいこともあります

心身に別の課題

既往病を持たれている方や脳梗塞による麻痺、精神疾患なども考慮した日々の対応が求められます

新しい認知症観



=これまで（～2025年）=

たくさんの方が認知症になる！大変だ！みんなあらかじめ心の準備を！
という啓蒙活動をしながら支援体制の構築を進めてきました。

【結果】世の中の多くの方が認知症という病を知ってくれた

=これから（2025年～）=

認知症基本法（認知症基本計画）

もっと正しく認知症を理解してもらおう！

学校教育／社会教育／専門職養成／認知症の方からの発信

<新しい認知症観>

「認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができる」

新しい認知症観を受けての取組み



■認知症に関する施策を当事者の意見を盛り込んで

計画定め、実行していくことが各市町に義務付けられ当事者の声を拾い上げるという活動が始まっています。

■その活動の一環としてワークショップにも利用者様の代弁者として

井福来からも参加しています。

【その場で話し合われた内容】

◎受診し診断を受けるまでがスムーズでなかった、認知症の専門員に結び付きにくかった。

◎三島市の認知症のパンフレットは紹介されたが、認知症になる前から存在を知っていたら、心づもりが出来たと思う。

◎診断を受けたのちの当事者の気持ちの変化 → 診断を受けて安心したという方も

◎どんな時に嬉しさ、悲しさを感じるのか（本人様） → 誰かの役になっている

あなたのまちの未来を考える
**認知症とともに生きる
地域づくりシンポジウム**

一人一人に関わる身近なテーマの
認知症について学びながら、三島で
できることを一緒に考えませんか。



2026 6/6(土) 14:00~16:00

場所 社会福祉会館大会議室

- 内容
- ①新しい認知症観について学ぶパネルディスカッション
 - ・認知症本人 ・認知症家族
 - ・池田裕介医師 [芝本町クリニック院長・認知症サポート医]
 - ・後藤剛久氏 [(有)ハーベストライフ事業所統括・認知症介護指導者]
 - ②ワークショップ
認知症施策推進計画策定に向けた意見交換など
- ※①のみの参加も可

申込み 長寿政策課

☎983-2689

または電子申請



認知症の時期による困りごとの変化

